

スポーツイベントに参加する子どもへの親の期待

上 菌 嘉輝 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)
指導教員 河西 正博

キーワード：スポーツ，保護者，期待

1. 緒言

波多野 (2006) によれば，子が幼少期・小学校期にある場合には，健康体力に関わる親の意識や行動が子に直接的に影響を及ぼす傾向があるとされている。また，金子 (2008) は「子ども向けのスポーツ活動の場合，入会や脱退の権限は，子どもの自発的な意思というより，親が決定する場合が多い」と指摘しており，子どもの運動・スポーツ活動に関して保護者の意向が強く働いていることが明らかである。そこで，本研究では，子どもの運動・スポーツ活動に対する保護者の意識および期待を明らかにするために，子ども・保護者両者のスポーツ活動実態，スポーツに対する意識等に関するアンケート調査を実施した。

2. 研究方法

上記の課題を検討するため，総合型地域スポーツクラブ Tクラブ (以下 Tクラブ) のバレーボール教室に通う子どもの保護者を対象にアンケート調査を行った。

配布数：40 件 回収数：21 件

回収率：52.5%

3. 結果と考察

1) 子どもと保護者のスポーツ実施について

Tクラブ以外でも運動・スポーツを実施している子どもは 13 名 (61.9%) となっており，実施種目については，バレーボールが 10 名 (87%) であった。また，実施頻度についてみると，Tクラブよりも，クラブ外の部活動の活動頻度が高くなっており，Tクラブでの活動は，部活動でバレーボールを行っている子どもにとっては特に，部活動での競技力をさらに高めるため，もしくは補足するための活動になっているものと考えられる。また，保護者についてみていくと，定期的に運動を実施している保護者は 11 名 (52.4%) であった。Tクラブの保護者の運動・スポーツ実施種目については，バレーボール 8 名となっており，保護者自身もバレーボール経験者が多いことが明らかである。これは，保護者のスポーツ活動の影響が直接子どもに影響するという先行研究と同様の結果を示しており，子どもが実施しているスポ

ーツ種目は，親の影響を受けているものと推察される。

2) 保護者の意識

保護者の子どものスポーツ活動に対する意識について，保護者自身の定期的な運動実施の有無でみていくと，実施有群では「競技力向上」9 名 (43%) が最も高く，実施無群では「健康づくり・体力向上」6 名 (33%) が最も高いことから，保護者自身の実施種目と子どもの種目選択との関係性と同様に，保護者のスポーツ経験によって子どものスポーツに対する意識が異なっているものと考えられる。

4. おわりに

調査結果より，定期的な運動を行っている保護者の大多数がバレーボールを行っており，子ども自身の種目選択は，少なからず保護者の影響を受けているものと推察された。また，子どものスポーツに対する意識については，定期的に運動を行っている保護者において競技的に取り組んでもらいたいという意向が強い一方で，定期的な運動習慣がない保護者に関しては，健康づくりとしてのスポーツが意識されている傾向がみられた。子どものスポーツ活動の充実，課題を検討するに当たっては，これらのように，保護者自身の運動経験およびスポーツに対する意識の検討が重要といえるのではないだろうか。

本研究の課題として，調査対象者が少数であるため十分な考察を行うことができなかつたことが挙げられ，今後より詳細な調査を行っていきたいと考えている。

引用・参考文献

波多野義郎 (2006) 親の意識は子どもの健康体力関連行動意識にどう関与するか. 九州保健福祉大学研究紀要. 7:47-51.

金子勝司・東野充成・村田敦郎 (2008) スポーツと子どもの発達に関する研究—子ども向け地域スポーツに対する親の期待感と効用感—. 共栄学園短期大学研究紀要. 24:91-108.